令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-012

PDCA	事務事業名	ごみステーション整備事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	深川		
					内線等	23-3567		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち						
		節： 第2節 環境との共生						
		基本施策： 2. 廃棄物対策						
		単位施策： (2) 廃棄物の処理						
根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則							
対象・目的	ごみステーションは、毎日の一般家庭から排出される場所であり、常に清潔で利用しやすい状態にしておく必要がある。							
目的を達成するための手段・活動内容	住民要望等によるごみステーションの新設や分散化を図るため、整備体制を充実させるとともに、老朽化に伴う枠の補修や散乱防止ネットの取替え等を随時実施し、適正なごみ出しの推進に努める。 自治区と連携・協力を図り、カラスや猫の対策及び地域特性に合ったごみステーションの構築を実施。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ごみステーション設置数		2,020	2,056	2,097	か所	
		②枠の補修数		76	86	90	基	
		③ネットの取替え数		253	209	202	枚	
			事業費	5,409	6,849	5,997	千円	
			人件費	14,264	13,041	16,664	千円	
			総事業費	19,673	19,890	22,661	千円	
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①ごみステーション維持管理及び整備費(1か所当たり)		9.7	9.7	10.8	千円		
	成果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ごみステーション新設数	実績値	39	46	50	か所	
			目標値	30	40	40		
			実績値					
			目標値					
		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響		大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
		B						
		折り畳み式のごみステーションなどそれぞれの場所に適したごみステーションを設置することにより、住民の要望に対してきめ細やかな対応ができた。ごみステーション未設置の既存アパートについても、地域の実情に応じて新たにごみステーションを設置するよう働きかけ、15箇所設置をした。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
		自治区や地域住民の理解と協力を求めながら、ごみステーションを適正に配置する。また、3Rアドバイザーや自治区をはじめとした地域住民、ごみ収集を行う委託業者との連携を図り、情報把握に努める。そして、ごみステーションの新設や修繕などの対応を迅速に行い、清潔な環境を維持する。						
	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位		
		適切にごみステーション新設・修繕する。						